



1. まちづくり伊達の軒先を福島学院大学の学生らが改装。照明にワインボトルを使うなど趣向を凝らした /2. ワインを片手に会話が弾む /3. オープンカフェの開放的な雰囲気の中でワインを楽しむ /4. 伊達市の畑で育てたブドウから作られたワイン

「まちなかでワインを楽しむ」

3月2日、空き店舗を活用してワイナリー出店を目指す「まちなかワイナリー事業」の一環として、伊達地域のまちづくり伊達で「だてまちなかワインカフェ」を開催しました。市では、2年前からワイン用ブドウの試験栽培をしており、今年2月に赤ワインのボトル81本が完成。今回のイベントで試飲を行いました。オープンカフェ風のおしゃれな雰囲気の中、来場者たちが伊達市産のワインを楽しみました。

市長コラム



第10回「手話を始めてみませんか」

伊達市では昨年3月、県内市町村で2番目となる“手話言語条例”を制定しました。条例では「手話は、耳が聞こえない人や聞こえづらい人が物事を考え、会話するときに、手指や体の動き、表情を使って視覚的に表現する言語」と定義しています。

そして条例制定1年を記念して、去る3月16日に市内手話サークル等の皆さんの主催による「第1回伊達市手話まつり」が開催されました。私も開会式でご挨拶をさせていただきましたが、冒頭の「皆さんおはようございます。私は伊達市長のすだひろゆきと申します。よろしくお願いします。本日は、第1回伊達市手話まつりが開催されますこと誠にありがとうございます。」の部分で、一文字一文字覚えてきた手話でお伝えさせていただきました。手話での挨拶が終わり皆さんから笑顔と大きな拍手をいただいたとき、私は伝わることの楽しさ、素晴らしさを実感しました。

普段私たちは何気なく言葉を発しています。しかし、その言葉を一文字一文字心を込めて手話で伝えようとしたとき、大袈裟かもしれませんが、発した言葉に命が吹き込まれるような気がしました。手話はコミュニケーションを得るためには欠かせない手段ではありますが、併せて、私たちに言葉の大切さを教えてくれているように感じました。

どうぞ皆さん、まずはいつもの“あいさつ”から手話を始めてみませんか。

須田 博行

手話でコミュニケーション vol.11

今月の手話
「春」「暖かい」



両手のひらを上に向け、お腹からあおぐように上げる動作を繰り返します。